

# “青少年のテレビに対する行動・意識の形成と その関連要因に関する横断的検討” —『青少年のメディア利用に関する調査』から—



放送倫理・番組向上機構  
青少年委員会

**BPO** 放送倫理・番組向上機構  
Broadcasting Ethics & Program Improvement Organization



青少年委員会

## 報告の内容

★ BPO青少年委員会では、多様なデジタル機器に囲まれて育つ現代の青少年のテレビに対する行動や意識に、どのような要因が関連しているのか検討するための全国調査を実施しました。  
対象となった中高生たちは、TV, ラジオ, PC, 携帯・スマートフォン, タブレット端末等多様な“家庭のなかのメディア (home media)”を利用しながらテレビに接しています。限られた調査項目ではありますが、調査から見えてきたポイントについて報告させていただきます。

1. 調査の背景と概要
2. 平日・休日のテレビ視聴の実態とその関連要因
3. 放送に関する倫理的な意識について



# 調査の背景と概要

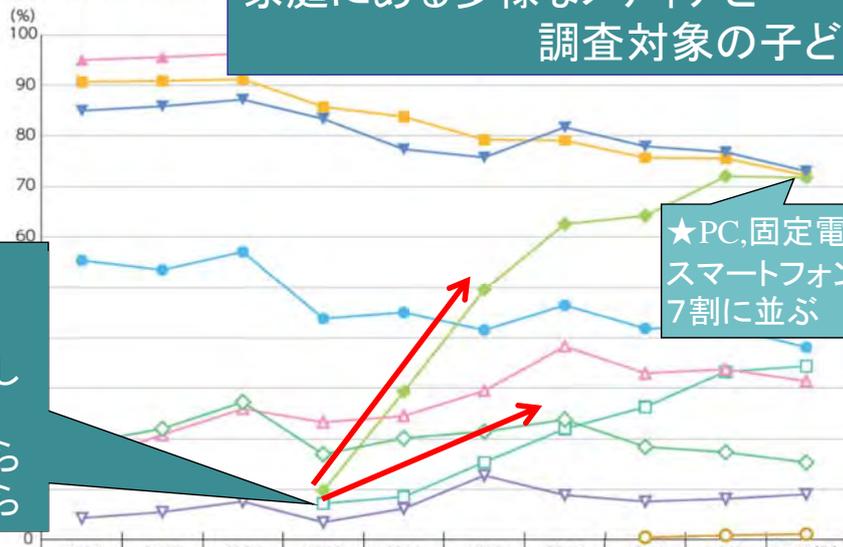


図表6-2-1-1 情報通信端末の世帯保有率の推移

## 家庭にある多様なメディアと 調査対象の子どもたち

★スマートフォンと  
タブレットは2010年  
以降に家庭に普及し  
始める  
中学1年生:小1から  
高校3年生:小6から

★PC,固定電話,  
スマートフォンともに  
7割に並ぶ



	2007 (n=3,640)	2008 (n=4,515)	2009 (n=4,547)	2010 (n=22,271)	2011 (n=16,530)	2012 (n=20,418)	2013 (n=15,599)	2014 (n=16,529)	2015 (n=14,765)	2016(推) (n=17,040)
固定電話	90.7	90.9	91.2	85.8	83.8	79.3	79.1	75.7	75.6	72.2
FAX	55.4	53.5	57.1	43.8	45.0	41.5	46.4	41.8	42.0	38.1
モバイル端末全体	95.0	95.6	96.3	93.2	94.5	94.5	94.8	94.6	95.8	94.7
スマートフォン	-	-	-	9.7	29.3	49.5	62.6	64.2	72.0	71.8
パソコン	85.0	85.9	87.2	83.4	77.4	75.8	81.7	78.0	76.8	73.0
タブレット型端末	-	-	-	7.2	8.5	15.3	21.9	26.3	33.3	34.4
ウェアラブル端末	-	-	-	-	-	-	-	0.5	0.9	1.1
インターネットに接続できる 家庭用テレビゲーム機	15.2	20.8	25.9	23.3	24.5	29.5	38.3	33.0	33.7	31.4
インターネットに接続できる 携帯型音楽プレイヤー	19.1	22.0	27.3	17.0	20.1	21.4	23.8	18.4	17.3	15.3
その他インターネットに接続できる 家電(情報家電)等	4.3	5.5	7.6	3.5	6.2	12.7	8.8	7.6	8.1	9.0

(出典) 総務省「通信利用動向調査」

<http://www.soumu.go.jp/johotsusintokel/statistics/statistics05.html>

# 国民のインターネット利用率

## : 中1でほぼ100%, 小学生も8割以上

図表6-2-1-5 属性別インターネット利用率



(総務省:平成29年度情報通信白書)

## 本調査の目的

### ★ 青少年の“テレビ離れ”は本当だろうか

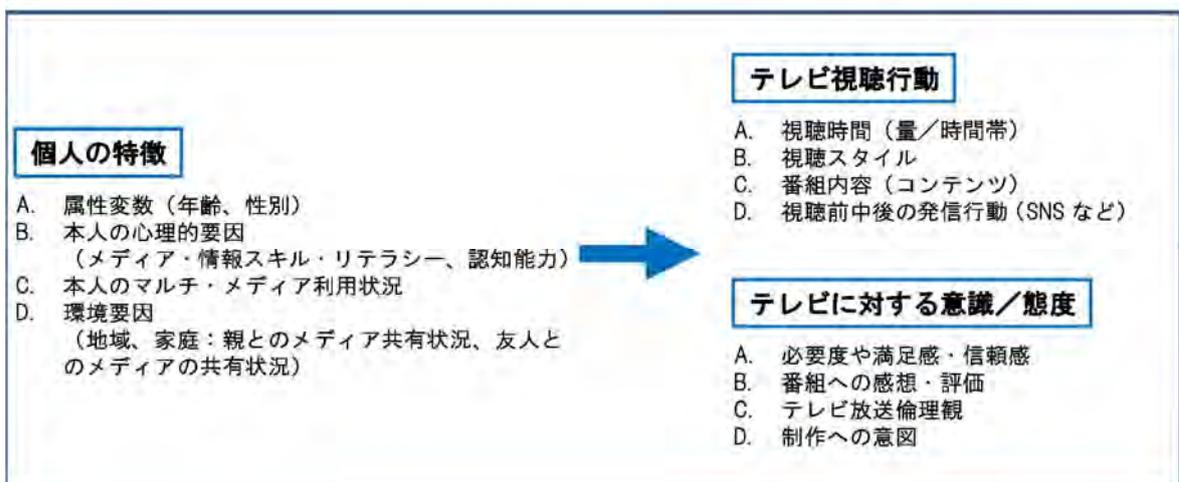
目的1: 全国の中高生のテレビ・ラジオ視聴とその他の映像メディアの利用実態を探る → マルチ・メディア状況の把握

### ★ 誰がテレビをよく見ているのだろうか

目的2: 多様な特徴(属性、心理的要因、環境要因等)との関連を検討

### ★ 青少年はテレビ番組についてどんな意見を持っているのだろうか

目的3: 番組に対する意見や放送倫理観の実態の把握



# 本調査の対象と方法

## 標本設計

- ① 調査対象: 中学1年～高校3年の6学年の子ども(平成11年4月2日～平成17年4月1日出生)を持つ世帯を対象とし、当該学年の子ども1名および保護者1名を対象とした。
- ② 調査対象地域: 全国
- ③ 調査地点数および標本数: 50地点  
標本数抽出は青少年のみ 2000人(1地点40人)
- ④ 抽出方法: 住民基本台帳を用いた層化二段無作為抽出

# 本調査の対象と方法

## 方法

郵送による配布・回収をおこなった。調査票は、青少年記入版調査票、保護者記入版調査票、および青少年記入によるテレビ、ラジオ、パソコン、タブレット端末、携帯・スマートフォンによる番組視聴に関する日記票(平日・休日各1日)の3冊子から構成されている。

## 調査期間

平成29年9月～11月

## 回収状況

回収 517票(回収率25.85%)

内訳は、青少年記入版:512票、保護者記入版:515票、青少年記入によるテレビおよびその他のメディア(ラジオ、DVD、携帯・スマートフォン等)に関する日記票:491票

## 調査内容: 青少年

### 【青少年用調査票】



- ① テレビなどの映像メディアの使い方やスキル、意識、態度
- ② メディア接触に関連すると先行研究から予想される本人自身の心理的な特徴（性格、メディアリテラシー、認知欲求など）

### 【青少年のテレビとラジオ番組視聴に関する日記票】

★総務省情報通信政策研究所の平成27年情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査(対象:13歳から69歳までの男女1,500人)より、様々なメディア機器によるテレビ・ラジオ番組の視聴を中心としたものに改変。日誌形式で、平日1日・休日1日の各24時間について、15分単位でのテレビ、ラジオ、携帯・スマートフォン、パソコン・タブレット端末の利用について、青少年自身に記録を依頼した。

## 調査内容: 保護者

### 【保護者用調査票】



- ★基本属性: 家庭の年収、家族構成、保護者の学歴、職業、子どもの基本属性(性別、出生順位、学校種等)
- ★子どものテレビ視聴に関する親の介入や共有について  
出典: Flanagan, et al., 2007 Circle Working Paper 55, Civic Measurement Models: Tapping Adolescents' Civic Engagement”), Valkenburg, P. M., Krmar, M., Peeters, A., & Marseille, N. M. (1999). Developing a scale to assess three styles of television mediation: “restrictive mediation,” “Instructive mediation,” and “social covieing.” *Journal of Broadcasting and Electronic Media*, 43, 52-66.
- ★家族関係性: FACES-III, 家族機能測定尺度(凝集性)

## 回答者の属性

### 1. 青少年の属性

青少年の平均年齢は 14.91 歳(12~18 歳)で、性別は、男子 257 名(50.2%)、女子 255 名(49.8%)である。学年は図1の通り。

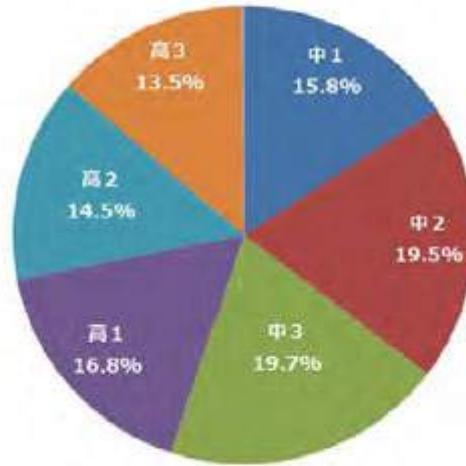
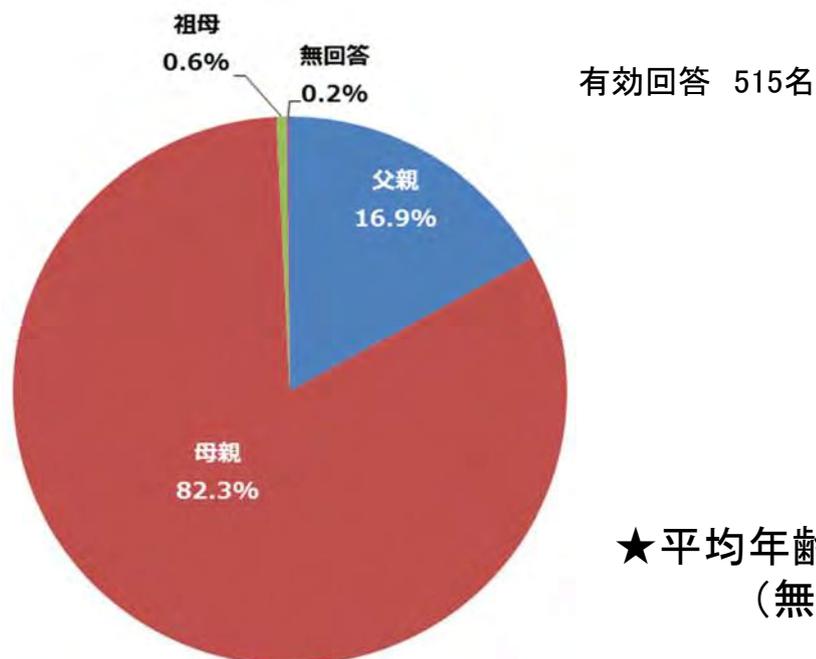


図1 回答した青少年の学年分布

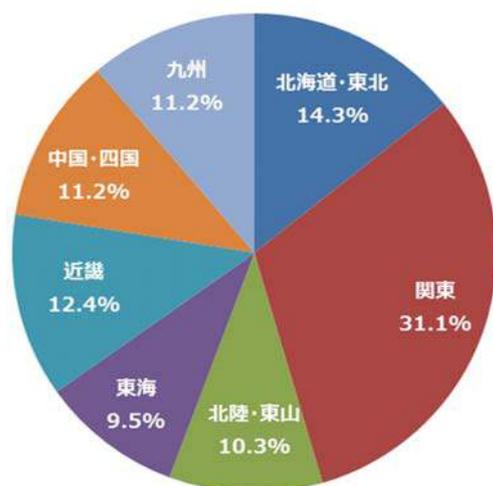
\* 中等教育学校については、中学・高校それぞれの相当する学年に合算

## 回答者の属性(保護者票)



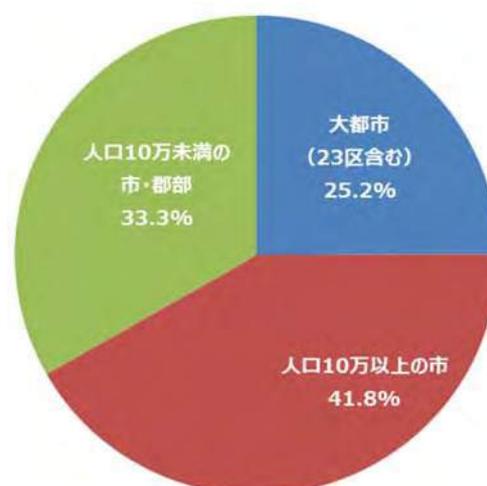
## 回答者の属性(地域・都市規模)

### 【地域】



※東山:山梨・長野・岐阜3県

### 【都市規模】



## 平日・休日の青少年の生活とメディア利用



## 青少年の生活時間

1. おもな活動の時間：就寝時刻は平日・休日ともに 23 時頃。起床在宅時間は平日で朝 1 時間・夜 5 時間の約 6 時間。

表1 平日と休日の平均生活時間

<生活時間>		全体	性別		学校	
			男子	女子	中学生	高校生
平日	起床時刻	6:31	6:35	6:27	6:31	6:30
	就寝時刻	23:18	23:13	23:24	23:00	23:40
	家を出た時間	7:29	7:30	7:27	7:28	7:29
	帰宅時間	18:02	17:56	18:08	17:31	18:40
	クラブ活動	69.27分	63.75分	74.91分	66.27分	73.39分
	家庭学習	65.55分	62.17分	69.01分	69.18分	61.31分
	塾・図書館での学習	33.85分	35.50分	32.15分	38.90分	27.64分
休日	起床時刻	7:43	7:36	7:51	7:32	7:58
	就寝時刻	23:21	23:11	23:31	22:59	23:46
	クラブ活動	110.93分	123.30分	98.67分	125.19分	93.03分
	家庭学習	101.26分	86.60分	115.86分	100.27分	103.10分
	塾・図書館での学習	32.78分	34.86分	30.70分	31.48分	34.62分

\* 起床時刻と就寝時刻は24時で表現されている。 \* 黄色部分は20分以上の差があったもの。

## メディア機器の保有状況

1. メディア機器保有状況：自分専用のテレビやパソコンの保有は1割前後。中学生 42.2%に対して高校生は 92.5%がスマートフォンを保有。

表2 自分専用のメディア機器の保有率

	全体	性別		学校	
		男子	女子	中学生	高校生
テレビ	8.0%	10.1%	5.9%	6.0%	10.1%
パソコン	10.3%	13.0%	7.5%	6.0%	15.0%
タブレット端末	15.7%	18.5%	13.0%	15.7%	15.9%
携帯電話	17.0%	17.2%	16.7%	17.7%	15.9%
携帯音楽プレーヤー	36.5%	29.0%	43.9%	36.5%	36.6%
ゲーム機（携帯ゲーム機を含む）	55.6%	66.8%	44.4%	61.8%	48.5%
スマートフォン	66.2%	58.0%	74.5%	42.2%	92.5%

\* 黄色部分は10ポイント以上の差があったもの

## テレビ番組の視聴時間

1. リアルタイムのテレビ番組視聴：平日 25.6%・休日 31.4%は視聴なし。  
行為者平均は平日 125.9分、休日 184.9分。

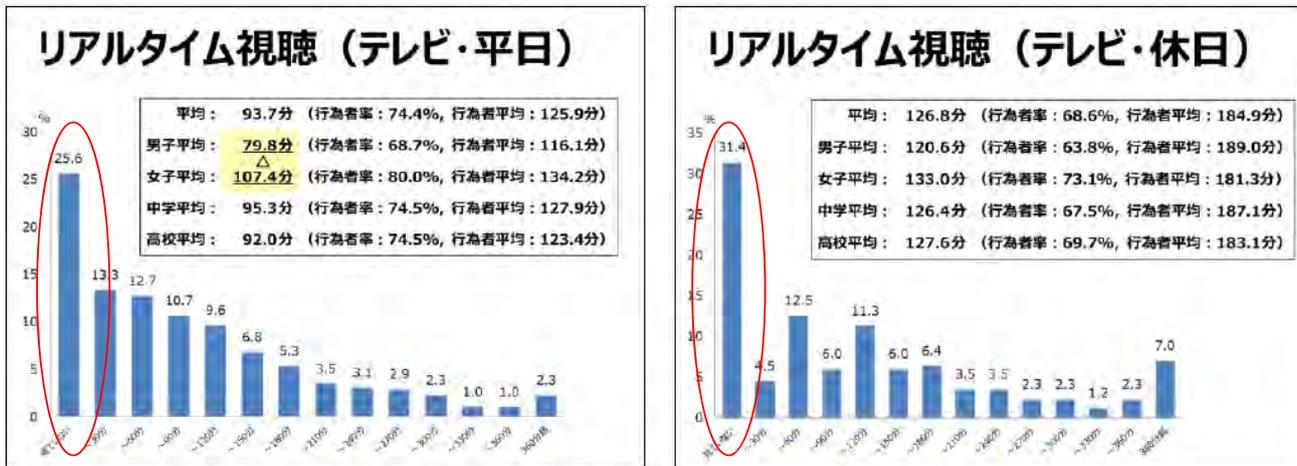


図4 リアルタイムでのテレビ番組視聴の均時間(分)：平日と休日

- ➡ 広い範囲に分布、ゼロ視聴が最も頻度が高い。
- ➡ 2016年の総務省調査では、10代(13～19歳、N=139)のリアルタイムテレビ視聴の平均は、平日89分・休日122.9分、視聴なしは平日30.7%・休日22.9%

2. テレビ番組の録画・オンデマンド視聴：視聴は2割台、行為者の平均は平日 73.6分・休日 119.5分。

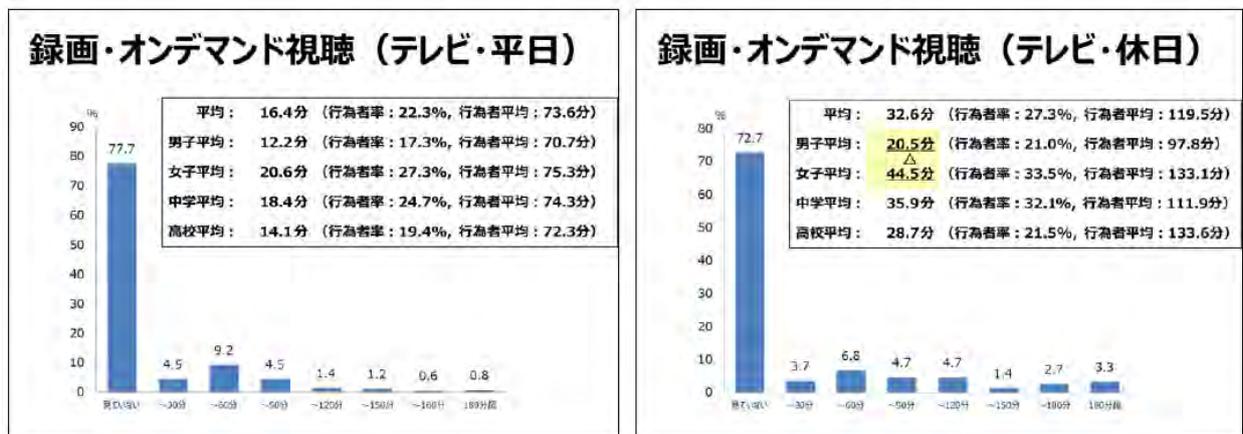


図5 録画・オンデマンド配信でのテレビ番組視聴の平均時間(分)：平日と休日

- ➡ 2016年の総務省調査では、10代(13～19歳、N=139)のテレビ番組の録画視聴の平均は、平日13.4分・休日25.9分、行為者率は平日13.4%・休日23.6%。

## テレビ以外の主なメディア機器の利用実態

### 1. DVD・ブルーレイ・ビデオの視聴

調査期間中にDVD/ブルーレイ/ビデオを視聴した中高生は、平日4.9%・休日8.0%と1割以下であった。男子6.5%に対して女子12.1%と女子の視聴者のほうが多く、休日の女子の行為者平均も2時間を超えている。

### 2. ラジオの利用

リアルタイムでのラジオ利用者の割合は、全体で平日・休日ともに5%以下と少数だが、行為者の平均は1時間前後であった。

### 4. タブレット端末の利用

タブレット端末でのテレビ番組視聴はほとんどおこなわれていない。動画の閲覧やゲームは高校生より中学生に多く利用されている。

＜タブレット型端末＞		学校種別					
		中学生			高校生		
		全体 平均(分)	行為者率	行為者 平均(分)	全体 平均(分)	行為者率	行為者 平均(分)
平日	リアルタイムのテレビ番組の視聴	0.7	0.4%	180.0	0.0	0.0%	
	録画・ダウンロードしたテレビ番組の視聴	0.6	1.1%	55.0	0.0	0.0%	
	Youtube、ニコニコ動画等の動画投稿・共有サイトの閲覧	12.3	14.8%	83.1	7.0	4.2%	167.5
	ゲーム(プレイ)	9.8	14.4%	68.1	1.2	2.8%	42.5
休日	リアルタイムのテレビ番組の視聴	0.5	1.1%	45.0	0.0	0.0%	
	録画・ダウンロードしたテレビ番組の視聴	0.3	0.7%	45.0	0.0	0.0%	
	Youtube、ニコニコ動画等の動画投稿・共有サイトの閲覧	14.9	16.4%	90.5	14.7	6.4%	229.3
	ゲーム(プレイ)	18.7	14.9%	125.3	2.7	1.8%	150.0

## テレビ視聴時間の3群比較

### 1. 基本属性

調査した平日1日・休日1日において、リアルタイムおよび録画・オンデマンドでのテレビ番組の視聴がいずれもなかった群(“視聴なし”)、行為者平均時間以下だった群(“行為者平均以下”)、平均より長かった群(“行為者平均より長い”)の3群を構成し、その特徴について検討した。

【平日】

	行為者平均 より長い	行為者平均 以下	視聴なし
標本サイズ	29.3%	50.6%	20.1%
TVリアルタイム視聴(分)	215.0	60.5	0.0
TV録画・オンデマンド視聴(分)	30.8	14.6	0.0
子どもの年齢(歳)	14.9	14.9	14.9
性別(男子%)	38.5%	50.6%	64.3%
中学生	58.0%	55.1%	53.6%
収入(400万円以上)	70.4%	82.6%	71.3%
親の学歴(大卒以上)	19.6%	27.2%	26.8%
大都市(23区含む)在住者	35.7%	21.1%	21.4%

【休日】

	行為者平均 より長い	行為者平均 以下	視聴なし
標本サイズ	29.6%	47.2%	23.2%
TVリアルタイム視聴（分）	294.4	84.2	0.0
TV録画・オンデマンド視聴（分）	74.8	22.3	0.0
子どもの年齢	14.8	14.9	15.1
性別（男子%）	40.3%	48.3%	65.5%
中学生	58.3%	55.0%	51.3%
収入（400万円以上）	75.2%	80.5%	68.8%
親の学歴（大卒以上）	20.1%	28.4%	24.1%
大都市（23区含む）在住者	27.1%	24.3%	26.5%

\* 黄色部分は10ポイント以上差があったもの。

表8 テレビ視聴3群の生活時間

<生活時間>		平日テレビ視聴時間群		
		行為者平均 より長い	行為者平均 以下	視聴なし
平日	起床時刻	6:34	6:28	6:33
	就寝時刻	23:20	23:19	23:15
	家を出た時間	7:33	7:27	7:26
	帰宅時間	17:30	18:16	18:17
	クラブ活動	56.5分	75.6分	72.0分
	家庭学習時間	68.5分	63.6分	66.1分
	塾・図書館での学習	20.1分	38.3分	43.0分
<生活時間>		休日テレビ視聴時間群		
		行為者平均 より長い	行為者平均 以下	視聴なし
休日	起床時刻	7:50	7:32	8:00
	就寝時刻	23:25	23:17	23:22
	クラブ活動	75.5分	127.8分	125.1分
	家庭学習	101.3分	103.7分	90.9分
	塾・図書館での学習	18.3分	38.1分	41.6分

\* 黄色部分は20分以上の差がみられたもの。

表9 テレビ以外のメディア利用時間

<テレビ以外のメディア利用>		平日テレビ視聴時間群		
		行為者平均 より長い	行為者平均 以下	視聴なし
平日	ラジオ	4.6分	3.9分	3.5分
	携帯・スマホ（動画視聴）	29.9分	25.1分	38.2分
	携帯・スマホ（ゲーム）	25.0分	20.5分	36.6分
	パソコン（動画視聴）	3.6分	3.2分	12.2分
	パソコン（ゲーム）	2.5分	4.7分	1.8分
	タブレット端末（動画視聴）	10.2分	9.2分	16.5分
	タブレット端末（ゲーム）	7.9分	2.7分	11.5分
	読書時間	11.2分	11.5分	17.4分
		休日テレビ視聴時間群		
		行為者平均 より長い	行為者平均 以下	視聴なし
休日	ラジオ	4.4分	1.2分	3.1分
	携帯・スマホ（動画視聴）	41.9分	41.0分	70.0分
	携帯・スマホ（ゲーム）	34.9分	32.2分	56.7分
	パソコン（動画視聴）	8.4分	10.5分	11.6分
	パソコン（ゲーム）	8.0分	7.0分	5.6分
	タブレット端末（動画視聴）	16.4分	14.5分	22.5分
	タブレット端末（ゲーム）	9.8分	11.3分	14.1分
	読書時間	9.6分	10.6分	17.8分

\* 黄色部分は20分以上の差があったもの。

## テレビ視聴中のスマートフォンの使用

### 1. テレビを見ながらの携帯・スマートフォン利用

63.7%がテレビを見ながら同時に携帯・スマートフォンを「よく」「ときどき」利用していると回答しており、携帯・スマートフォンを手にしながらのテレビ視聴は定着しつつあるといえる。

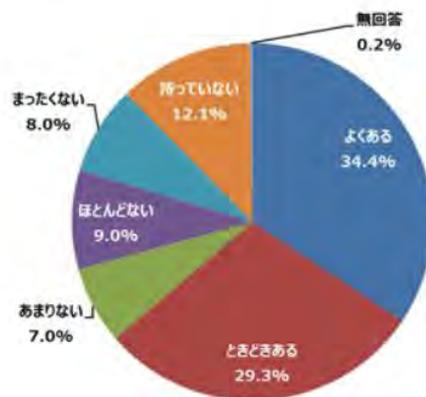


図6 テレビ視聴中の携帯・スマートフォン利用

2. テレビ番組をめぐる SNS 利用：放送前・放送中・放送後の発信は 1 割未満、  
閲覧は 1~2 割。

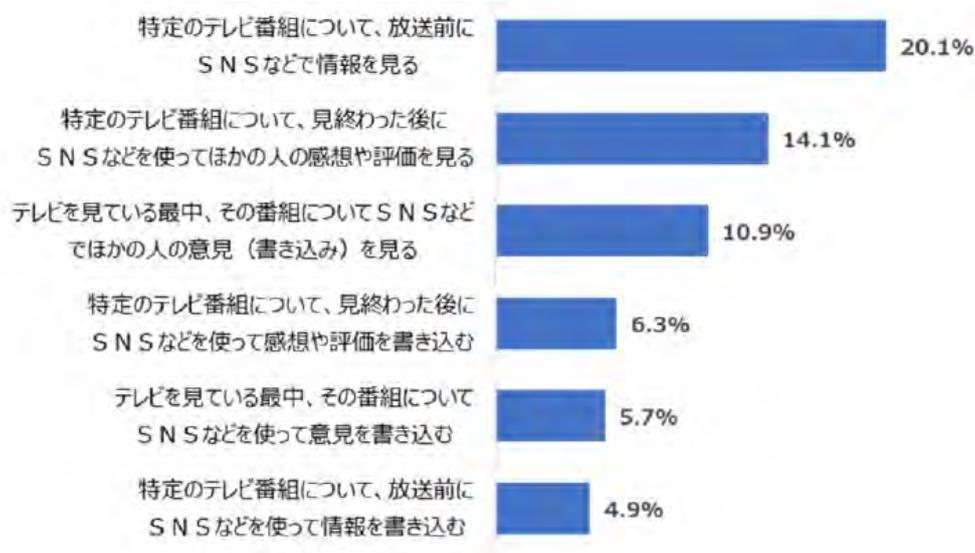
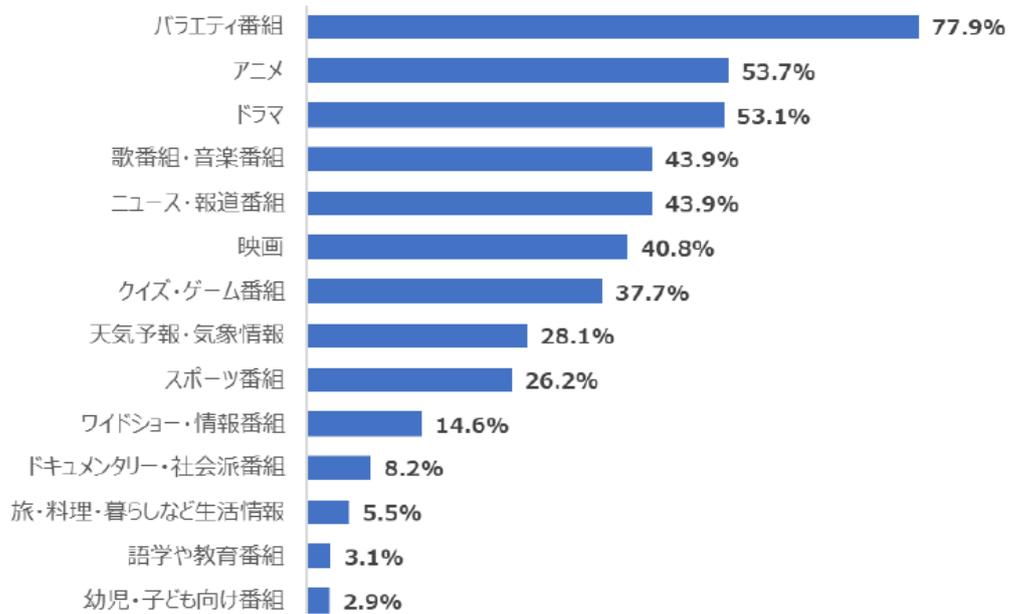


図7 特定テレビ番組の放送前・放送中・放送後の SNS 利用

よく見る番組のジャンル



➡ バラエティが圧倒的に多い(77.9%)が、アニメ、歌・音楽、ドラマ、ニュース・報道、映画も4割以上が視聴している。

【平日】テレビ視聴時間の3群

行為者平均より長い		行為者平均以下		視聴なし	
バラエティ番組	85.8%	バラエティ番組	81.1%	バラエティ番組	69.6%
ドラマ	66.0%	ドラマ	56.8%	アニメ	52.2%
アニメ	56.7%	アニメ	54.3%	ドラマ	32.6%

【休日】テレビ視聴時間の3群

行為者平均より長い		行為者平均以下		視聴なし	
バラエティ番組	90.7%	バラエティ番組	81.1%	バラエティ番組	64.8%
ドラマ	70.7%	ドラマ	54.6%	アニメ	51.9%
歌番組・音楽番組	60.0%	アニメ	53.3%	ニュース・報道番組	36.1%

青少年にとっての“テレビ”



図9 テレビに対する効用感

	男子	女子
テレビの話題で友だちと盛り上がるができる	58.9%	73.8%
テレビは家族の会話に役立っている	58.5%	61.4%
テレビを見てストレスが発散されることがある	51.2%	54.5%
テレビによって現実にはできない経験を味わえる	49.4%	54.2%
テレビを通じて毎日の生活に欠かせない情報が得られる	44.7%	53.0%
テレビを通じて生き方や行動の手本が得られる	37.3%	40.3%
テレビを見ることで毎日の生活に習慣やリズムが生まれる	33.2%	37.9%

	中学生	高校生
テレビの話題で友だちと盛り上がるができる	70.6%	61.3%
テレビは家族の会話に役立っている	58.4%	62.1%
テレビを見てストレスが発散されることがある	51.1%	55.3%
テレビによって現実にはできない経験を味わえる	53.4%	50.0%
テレビを通じて毎日の生活に欠かせない情報が得られる	50.2%	47.3%
テレビを通じて生き方や行動の手本が得られる	39.6%	38.1%
テレビを見ることで毎日の生活に習慣やリズムが生まれる	36.9%	34.1%

図10 テレビに対する効用感(性別・学校種別による比較)

【平日】テレビ使用時間 (リアルタイム・録画・オンデマンド)	行為者平均より長い	行為者平均以下	視聴なし
テレビの話題で友だちと盛り上がるができる	78.6%	72.2%	35.1%
テレビは家族の会話に役立っている	69.5%	64.5%	38.1%
テレビを見てストレスが発散されることがある	53.9%	58.9%	40.6%
テレビによって現実にはできない経験を味わえる	56.0%	54.4%	41.2%
テレビを通じて毎日の生活に欠かせない情報が得られる	58.9%	52.3%	32.0%
テレビを通じて生き方や行動の手本が得られる	44.7%	41.3%	26.8%
テレビを見ることで毎日の生活に習慣やリズムが生まれる	49.6%	34.4%	19.6%

【休日】テレビ使用時間 (リアルタイム・録画・オンデマンド)	行為者平均より長い	行為者平均以下	視聴なし
テレビの話題で友だちと盛り上がるができる	83.0%	67.6%	43.2%
テレビは家族の会話に役立っている	71.1%	63.7%	41.4%
テレビを見てストレスが発散されることがある	63.8%	54.2%	40.5%
テレビによって現実にはできない経験を味わえる	58.9%	50.9%	46.8%
テレビを通じて毎日の生活に欠かせない情報が得られる	59.6%	50.4%	36.9%
テレビを通じて生き方や行動の手本が得られる	46.1%	40.0%	29.7%
テレビを見ることで毎日の生活に習慣やリズムが生まれる	45.4%	34.5%	26.1%

図11 テレビに対する効用感(平日・休日のテレビ視聴時間別による比較)

## 2. 社会の問題に関する情報収集源

国際・政治・社会問題などに関する情報を集める媒体として、「頻繁に」「時々」テレビを利用するのは48.3%で、他の媒体より多い(インターネット:40.8%、新聞:19.3%、ラジオ:8.2%)。

### 国際・政治・社会問題などに関する情報を収集するために:

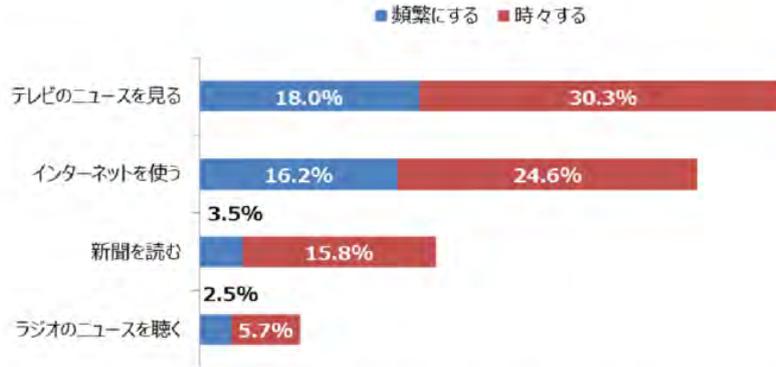


図12 国際・政治・社会問題などに関する情報を集める媒体

【平日】テレビ使用時間 (リアルタイム・録画・オンデマンド)	行為者平均より長い	行為者平均以下	視聴なし
テレビのニュースを見る	58.5%	49.0%	32.0%
インターネットを使う	48.3%	39.1%	37.5%
新聞を読む	17.5%	20.1%	21.6%
ラジオのニュースを聴く	8.4%	7.4%	9.3%

【休日】テレビ使用時間 (リアルタイム・録画・オンデマンド)	行為者平均より長い	行為者平均以下	視聴なし
テレビのニュースを見る	56.3%	48.7%	38.7%
インターネットを使う	46.5%	41.0%	36.4%
新聞を読む	18.1%	20.2%	22.5%
ラジオのニュースを聴く	6.9%	9.6%	7.2%

図14 国際・政治・社会問題などに関する情報を集める媒体

## 家族・友人とのテレビ視聴の共有

### 1. 家族とのテレビ共有： テレビは「ほとんど」「たいてい」家族と一緒に 見ている中高生が6割。

ふだんの生活のなかでの家族とのテレビ視聴の共有について尋ねたところ、60.6%が「ほとんど」「たいてい」家族といっしょに見ると回答し、「半分くらい」以上では83.6%と高い割合を示した。平日1日・休日1日のテレビ視聴に関する日記票においても、視聴全体の平均時間に対する親・家族と一緒にみた平均時間の割合をみると、平日のリアルタイム視聴で71.9%・録画/オンデマンド視聴で47.6%、休日のリアルタイム視聴で64.9%・録画/オンデマンド視聴で42.6%であり、実態としても家族と一緒にテレビを共有していた中高生が多めであったことがわかる。

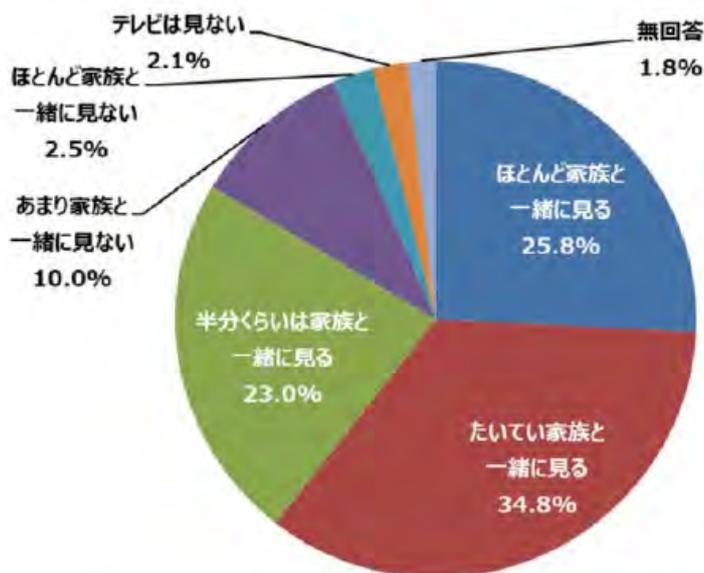


図15 家族とのテレビの共有傾向

## 2. 子どものテレビ視聴に対する親のかかわり：保護者回答票から

家庭内で親が子どものテレビ視聴にどのようにかかわっているか知るために、子どもと一緒にの視聴(共有視聴: co-viewing)の程度と、見る時間や内容に関する制限(restriction)の程度について保護者自身に尋ねた。お互いの好きな番組を一緒に見たりテレビを見て一緒に笑ったりするという項目に「いつも」「時々」と回答した者は8割～9割以上となり、親の好きな番組を子どもも見る、という項目にも7割が肯定的に回答している。

### <テレビ視聴の親子共有（保護者回答）>

	男子	女子
テレビを見て○○さんと一緒に笑う	91.4%	95.7%
○○さんもあなたも好きな番組を一緒に見る	82.3%	88.3%
○○さんもあなたも興味を持っている番組を一緒に見る	80.5%	87.2%
ただ楽しむために○○さんと一緒にテレビを見る	69.1%	75.8%
あなたの好きな番組を○○さんと一緒に見る	65.0%	75.1%

	中学生	高校生
テレビを見て○○さんと一緒に笑う	95.0%	92.2%
○○さんもあなたも好きな番組を一緒に見る	86.0%	84.8%
○○さんもあなたも興味を持っている番組を一緒に見る	85.4%	82.3%
ただ楽しむために○○さんと一緒にテレビを見る	73.6%	71.4%
あなたの好きな番組を○○さんと一緒に見る	70.5%	69.8%

### <テレビ視聴の親子共有（保護者回答）>

【平日】テレビ使用時間（リアルタイム・録画・オンデマンド）	行為者平均より長い	行為者平均以下	視聴なし
テレビを見て○○さんと一緒に笑う	97.9%	94.7%	84.7%
○○さんもあなたも好きな番組を一緒に見る	93.7%	86.1%	72.2%
○○さんもあなたも興味を持っている番組を一緒に見る	93.7%	84.6%	68.0%
ただ楽しむために○○さんと一緒にテレビを見る	86.0%	68.6%	62.2%
あなたの好きな番組を○○さんと一緒に見る	83.9%	69.9%	52.0%

【休日】テレビ使用時間（リアルタイム・録画・オンデマンド）	行為者平均より長い	行為者平均以下	視聴なし
テレビを見て○○さんと一緒に笑う	98.6%	96.5%	81.3%
○○さんもあなたも好きな番組を一緒に見る	89.5%	91.7%	67.6%
○○さんもあなたも興味を持っている番組を一緒に見る	88.9%	90.0%	65.2%
ただ楽しむために○○さんと一緒にテレビを見る	81.9%	75.5%	51.8%
あなたの好きな番組を○○さんと一緒に見る	82.6%	72.2%	50.9%

＜親によるテレビ視聴の制限（保護者回答）＞

	男子	女子
不適切な内容のテレビ番組を見ていたら、消すように言う	44.9%	45.5%
テレビを見てよい時間帯を決めている	39.7%	36.3%
テレビを見てよい時間量（一日〇〇分など）を決めている	22.2%	23.5%
特定の番組を見ることを禁じている	11.4%	11.4%
見てよい番組を事前に指定している	9.4%	12.2%

	中学生	高校生
不適切な内容のテレビ番組を見ていたら、消すように言う	50.4%	39.2%
テレビを見てよい時間帯を決めている	45.0%	29.7%
テレビを見てよい時間量（一日〇〇分など）を決めている	28.7%	15.9%
特定の番組を見ることを禁じている	16.2%	5.6%
見てよい番組を事前に指定している	13.3%	7.8%

図18 子どもに対する視聴制限(性別・学校種別による比較)

【平日】テレビ使用時間（リアルタイム・録画・オンデマンド）	行為者平均より長い	行為者平均以下	視聴なし
不適切な内容のテレビ番組を見ていたら、消すように言う	43.0%	45.7%	48.5%
テレビを見てよい時間帯を決めている	37.8%	38.4%	39.8%
テレビを見てよい時間量（一日〇〇分など）を決めている	16.9%	24.5%	27.6%
見てよい番組を事前に指定している	8.5%	8.6%	16.5%
特定の番組を見ることを禁じている	10.6%	13.1%	9.3%

【休日】テレビ使用時間（リアルタイム・録画・オンデマンド）	行為者平均より長い	行為者平均以下	視聴なし
不適切な内容のテレビ番組を見ていたら、消すように言う	42.0%	48.2%	42.9%
テレビを見てよい時間帯を決めている	34.0%	41.9%	36.6%
テレビを見てよい時間量（一日〇〇分など）を決めている	18.9%	24.5%	25.0%
特定の番組を見ることを禁じている	7.7%	15.7%	8.9%
見てよい番組を事前に指定している	8.4%	11.8%	9.8%

子どものテレビ視聴の内容や時間に関する制限に関する項目では、「不適切な番組を見ていたら消すように言う」「テレビを見てよい時間帯を決めている」の2項目で4割前後が「いつも」「時々」と回答しており、思春期以降の子どもに対しても統制的なかわりをしている親が少なからず存在していることがわかった。中学生のほうが高校生より高率であり、発達に沿った親の制限の変化がうかがわれる。テレビ視聴時間の3群の間で大きな差はなく、親の制限度と中高生のテレビ視聴時間の多寡との関連はあまりないと思われる。

## 2. 友人とのテレビ共有：中高生の8割近くが週1～2回以上友人とテレビ番組についての会話をしている

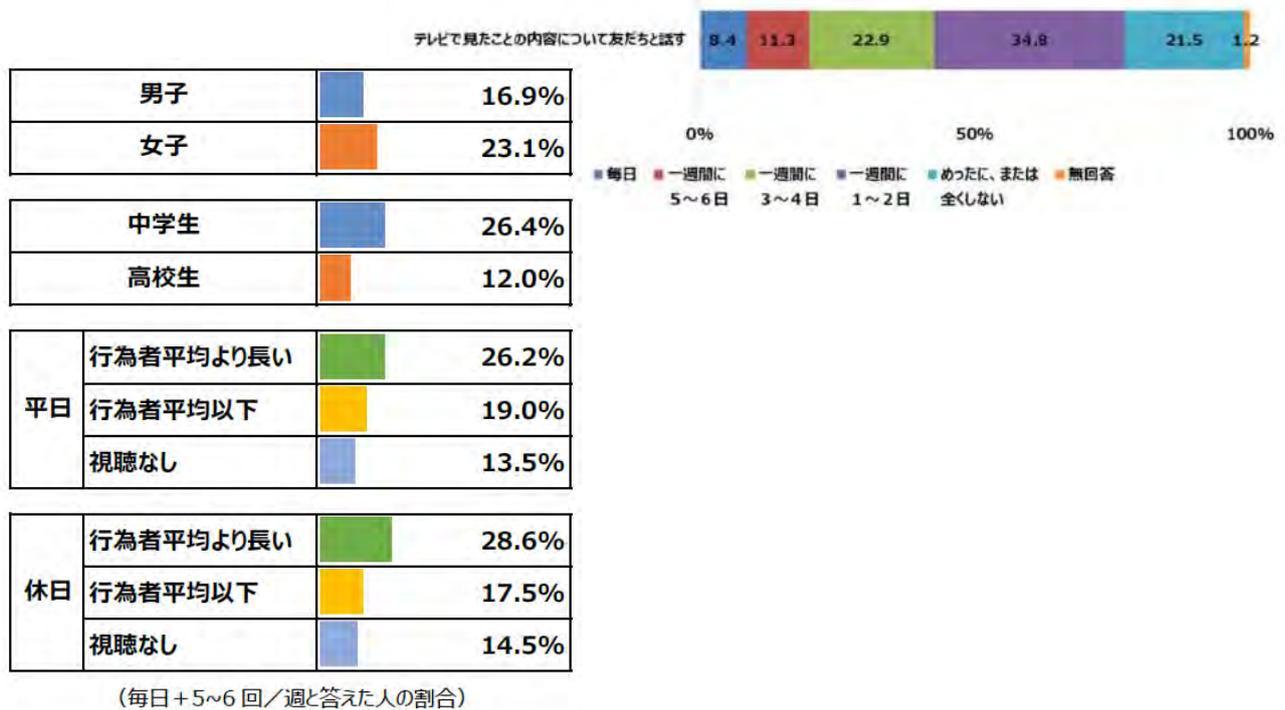


図21 友人とのテレビ共有傾向

## メディア・リテラシー

### 1. メディア操作スキル

メディア操作スキルについて「できるし、よくする」「できる」と回答した割合は、文書作成ソフトでの文書作成が47.3%に留まったのに対し、インターネットでの情報検索やメールのやりとりは8割以上となり、携帯やスマートフォンに特化したスキルの発達が進んでいる様相がうかがわれた。情報検索以外の項目で20～30%以上高校生のほうが高い割合を示している。



図22 メディア操作スキル

	男子	女子
Yahoo!やGoogleなどで必要な情報を見つける	94.9%	94.9%
パソコンや携帯・スマホでメールをやりとりする	77.4%	91.3%
携帯・スマホでニュースを読んだり、時刻表を調べたりする	81.7%	86.6%
インターネットの百科事典を使って調べる	80.9%	80.6%
自分の好きなホームページを「お気に入り」に入れる	68.5%	62.2%
写真や動画をコンピュータに取り込む	56.6%	61.3%
文書作成ソフトで文書を作る	47.7%	47.2%
Twitterで情報を発信する(つぶやく)	38.3%	48.0%
Instagram(インスタグラム)に写真を投稿する	26.8%	42.7%
Facebookに登録し、利用する	34.4%	23.7%
ブログやホームページを作る	23.3%	18.1%
	中学生	高校生
Yahoo!やGoogleなどで必要な情報を見つける	92.2%	98.3%
携帯・スマホでニュースを読んだり、時刻表を調べたりする	74.4%	96.5%
パソコンや携帯・スマホでメールをやりとりする	74.7%	96.1%
インターネットの百科事典を使って調べる	74.7%	88.6%
自分の好きなホームページを「お気に入り」に入れる	56.9%	76.0%
写真や動画をコンピュータに取り込む	46.8%	73.7%
文書作成ソフトで文書を作る	33.9%	64.2%
Twitterで情報を発信する(つぶやく)	22.1%	68.6%
Instagram(インスタグラム)に写真を投稿する	19.2%	53.5%
Facebookに登録し、利用する	18.1%	42.3%
ブログやホームページを作る	12.1%	31.0%

図23 メディア操作スキル(性別・学校種別による比較)

【平日】テレビ使用時間(リアルタイム・録画・オンデマンド)	行為者平均より長い	行為者平均以下	視聴なし
Yahoo!やGoogleなどで必要な情報を見つける	95.8%	95.1%	93.8%
携帯・スマホでニュースを読んだり、時刻表を調べたりする	86.7%	82.4%	85.6%
パソコンや携帯・スマホでメールをやりとりする	87.4%	82.4%	84.5%
インターネットの百科事典を使って調べる	79.0%	82.0%	79.4%
自分の好きなホームページを「お気に入り」に入れる	60.8%	66.4%	68.0%
写真や動画をコンピュータに取り込む	59.4%	56.6%	59.4%
文書作成ソフトで文書を作る	47.6%	48.0%	44.8%
Twitterで情報を発信する(つぶやく)	45.5%	41.0%	42.7%
Instagram(インスタグラム)に写真を投稿する	36.6%	34.4%	29.9%
Facebookに登録し、利用する	30.1%	29.2%	24.7%
ブログやホームページを作る	21.7%	19.7%	22.7%

## 2. メディアに対する主体的態度

メディア情報に対する主体的な態度について尋ねたところ、「そう思う」「ややそう思う」と回答した割合に男女差や中高間差はあまり明確ではなく、情報の確かさの確認や検索に複数のメディアを使うといった主体的な態度を示す者がいずれも5割を超えている。テレビ視聴時間の3群では、視聴なし群において、「テレビではニュースや報道番組も見る」で他の2群より低い割合だったが、他は大きな差はみられなかった。

	中学生	高校生
自分の好きなことや興味のあることで知らないことがあると気になる	73.1%	78.1%
テレビではニュースや報道番組も見る	66.8%	65.8%
知りたいと思ったことは人に聞くより本やインターネットでさがす方だ	53.2%	65.8%
知りたいと思う情報を得るにはテレビでは十分ではない	58.6%	61.0%
テレビの情報でもそのまま信じるよりも他のテレビ局の番組や新聞、インターネットで確かめた方がよい	45.9%	58.8%
新しい知識を得るのにテレビだけでなく新聞や本も役立っている	46.1%	38.6%
調べものをするとき、本や新聞、インターネットのどれで調べたいかまず考える	38.6%	30.3%
必要な情報を得るためなら、多少のお金がかかってもかまわない	16.1%	21.1%

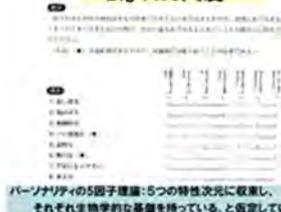
## テレビ視聴時間と関連する要因

平日と休日それぞれのテレビ視聴時間(リアルタイムテレビ時間+録画テレビ時間)の多さと関連する要因について検討するため、個人の特性に関する変数(性別、在住する地域の都市規模、世帯収入、性格的特徴)、テレビを見る時間と競合することが予想される自宅外での活動時間(クラブ活動、塾・図書館での学習時間)、テレビを視聴することの動機づけとなることが予想されるテレビに対する効用感の強さ、他者とのテレビ番組の共有度(親、友人)の4つのカテゴリーの変数を投入した重回帰分析をおこなった。

### 5因子理論 Five Factor Model

:1980年代以降開発されてきている5つの特性によるパーソナリティ理論。ゴールドバーグ(Goldberg)、マクレー & コスタ(McCrae & Costa)などが代表的研究者。生物学的基礎に関する研究も活性化しつつあり現在のパーソナリティ理論の中心の1つ

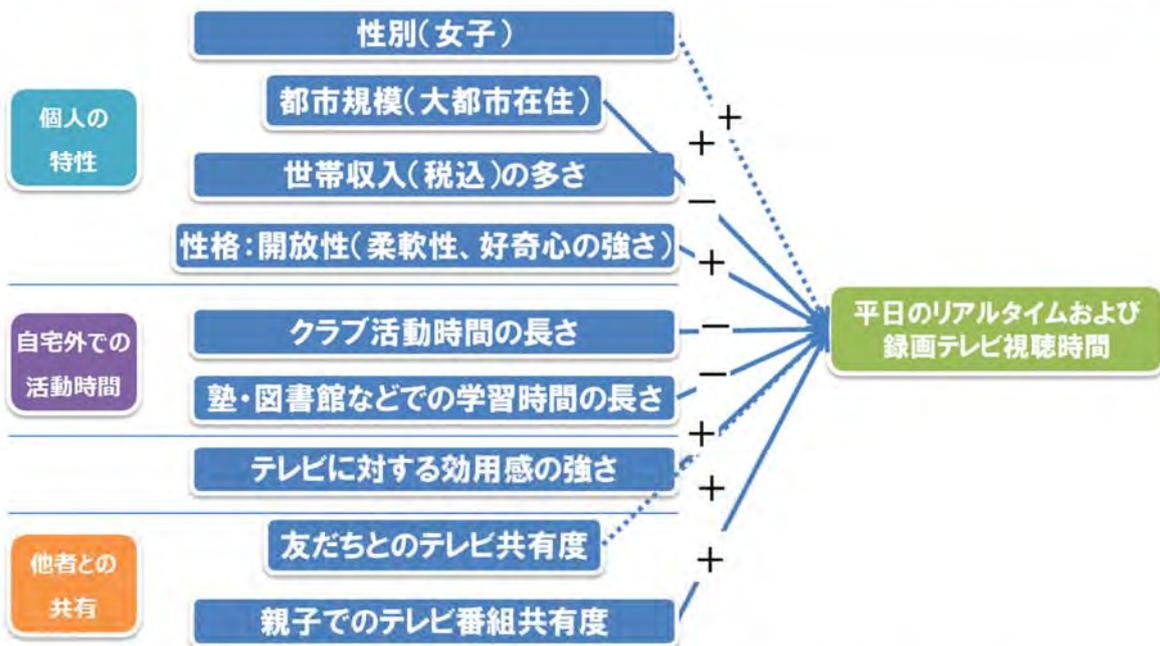
#### Big Five尺度



外向性:活動性、社交性、積極性  
 神経症傾向 :不安になりやすさ、心配しやすさ、動揺しやすさ  
 開放性 :経験に対する柔軟性、吸収力、好奇心の強さ  
 勤勉性:責任感、誠実さ、粘り強さ  
 協調性:調和性、愛他性、穏やかさ

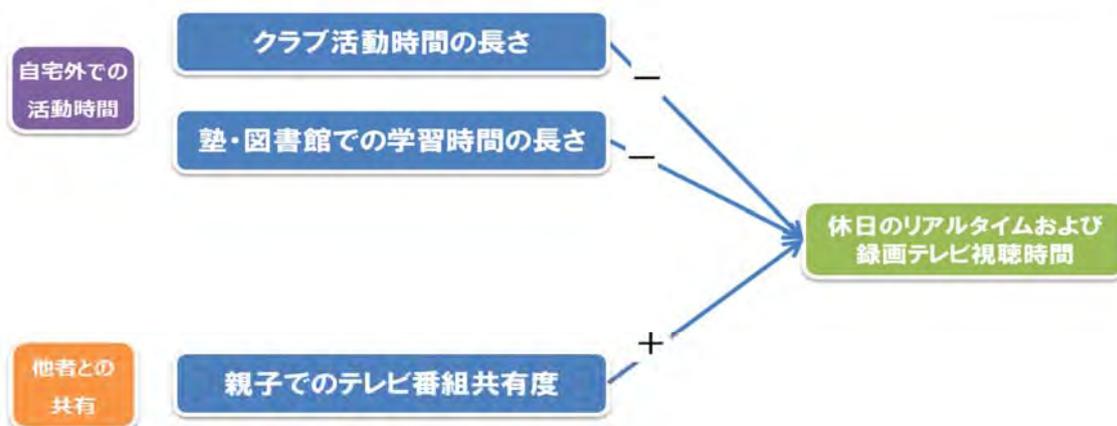
← 測定に使用した  
パーソナリティ尺度

## 平日のリアルタイムおよび録画テレビ視聴時間に関連する要因 (N=397)



注1) 子どもの年齢、保護者の学歴は統制済み 注2) 太実線は1%以下、破線は5%以下の有意なパスを示す  
注3) 性格については、「開放性」「勤勉性」「外向性」「協調性」「神経症傾向」の5特性について測定した

## 休日のリアルタイムおよび録画テレビ視聴時間に関連する要因 (N=374)



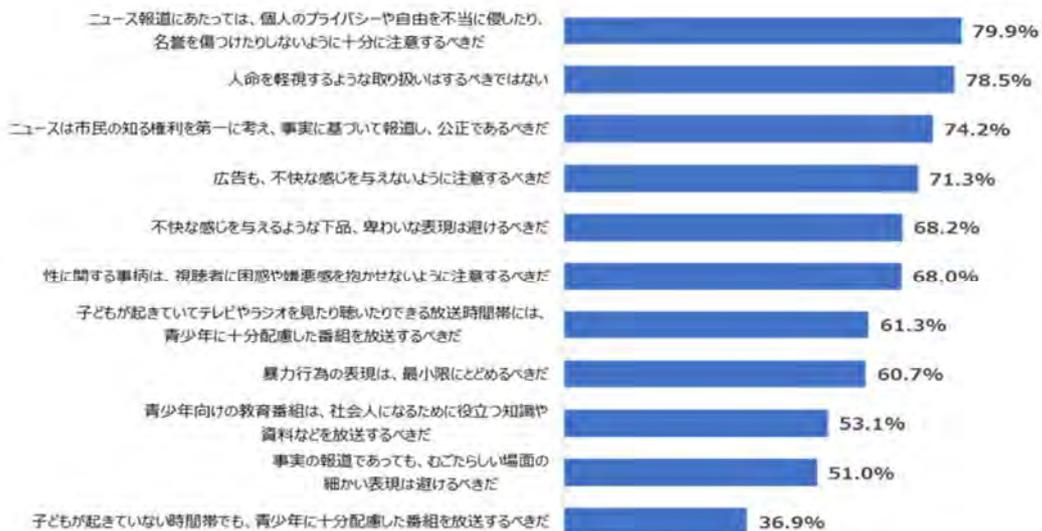
注1) 子どもの性別・年齢、保護者の学歴は統制済み  
注2) 太実線は1%以下、破線は5%以下の有意なパスを示す

# 放送に関する倫理的な意識の実態



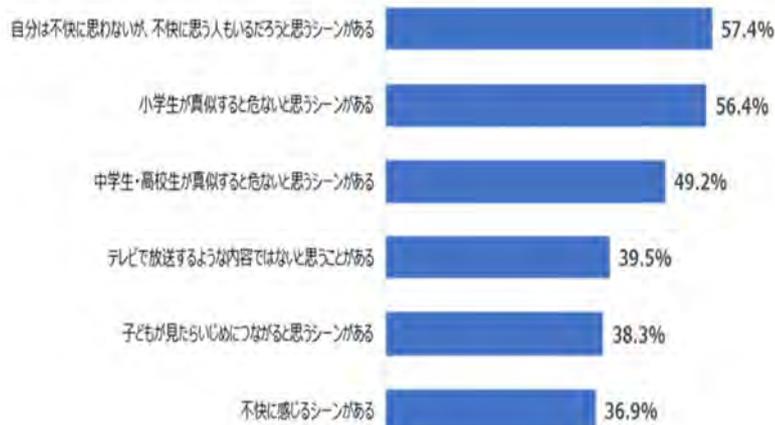
## 放送・番組に対する意見

1. 放送に関する倫理観：全般的に中高生の放送に対する倫理意識は高めだが、深夜番組への青少年配慮については賛成は3割台。



➡ 子どもの時間帯と大人の時間帯の切り分けや、教育番組への方向付け、報道の残虐性表現は意見が分かれている

## 2. バラエティ番組の“危うさ”に対する意見



	中学生	高校生
自分是不快に思わないが、不快に思う人もいるだろうと思うシーンがある	56.3%	59.9%
小学生が真似すると危ないと思うシーンがある	55.9%	58.3%
中学生・高校生が真似すると危ないと思うシーンがある	47.5%	52.9%
テレビで放送するような内容ではないと思うことがある	34.1%	47.1%
子どもが見たらいじめにつながると思うシーンがある	38.0%	39.6%
不快に感じるシーンがある	32.6%	43.2%

➡ 意見が割れているが、危うさを感じている層も少なくない。

### 結果のポイント

1. 平日1日・休日1日のメディア利用に関する日記調査より、平日25.6%・休日31.4%はリアルタイムでのテレビ番組視聴がなかった。一方で、テレビを見た者の平均は2~3時間と長く、青少年のテレビ視聴時間は広い範囲に離散している傾向が示された。平日または休日にテレビ視聴がなかった群は、視聴があった群と比較して、クラブ活動や塾等の家庭外活動時間が長いことに加え、65%程度と男子が多いこと、携帯・スマートフォンでの動画閲覧やゲーム時間が長いこと、テレビが自分の生活に役立つという効用感が低いこと、親や友人とテレビを共有することが少ないといった特徴がみられた。
2. 自分専用のテレビやパソコンの保有は1割前後と少なかった。スマートフォンの保有は中学生42.2%に対して高校生は92.5%と大きな差がみられた。

3. 60.6%の中高生が「ほとんど」「たいてい」家族といっしょにテレビを見ると回答し、「半分くらい」以上では83.6%と高い割合を示した。「親子でテレビを見て一緒に笑ったりする」に「いつも」「時々」と回答した保護者は8割～9割で、中高生のいる多くの家庭で、テレビは家族のコミュニケーションを円滑にする役割を担っていることがうかがえる。
4. 国際・政治・社会問題などに関する情報を集める媒体として、「頻繁に」「時々」テレビを利用する中高生は48.3%で、他の媒体より多い（インターネット：40.8%、新聞：19.3%、ラジオ：8.2%）。
5. テレビ視聴時間の関連要因に関する分析（重回帰分析）から、平日では、性別（女子である）・都市規模（大都市在住者である）・世帯収入（低い）・性格（物事に対する柔軟性があり新しい経験に対する好奇心が強い）、クラブ活動や塾等の自宅外での活動時間が短いこと、テレビの様々な機能に関する効用感が強いこと、また友人・親とのテレビ共有度が高いことが関連することが明らかになった。一方、休日については、青少年が外出せずに在宅していることと、番組と一緒に共有してくれる人（親については共有視聴、友人については内容について会話できること）がいることが、テレビ視聴の多さに関連することが示された。



ご清聴ありがとうございます  
ございました